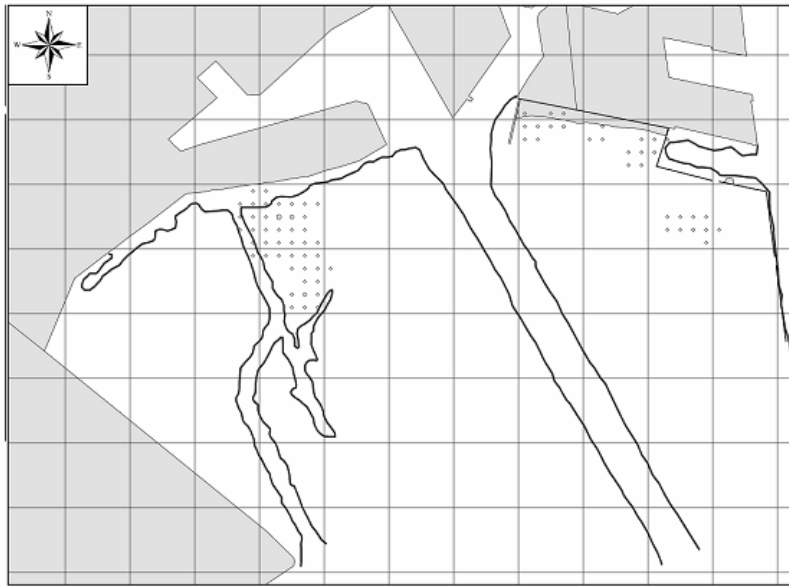


## ダイゼン

平成 19 年 8 月 28 日  
船橋海浜公園

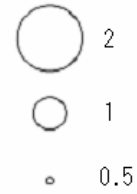


一般生態	旅鳥として春は3~5月、秋は8~10月に渡来する。干潟、河口の三角州、砂浜などの砂泥地に生息し、昆虫、甲殻類、貝類、ゴカイ、植物の種子などを採餌する。																								
確認時期	<p>平成 8~9 年度と同様、5 月、9 月の確認個体数が多かった。</p> <table border="1"> <caption>ダイゼン 観察個体数/時</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>平成19年度</th> <th>平成8年度</th> <th>平成9年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>52</td> <td>72</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>27</td> <td>2</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>70</td> <td>111</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>38</td> <td>14</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>31</td> <td>8</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	月	平成19年度	平成8年度	平成9年度	5	52	72	84	8	27	2	23	9	70	111	0	1	38	14	0	2	31	8	25
月	平成19年度	平成8年度	平成9年度																						
5	52	72	84																						
8	27	2	23																						
9	70	111	0																						
1	38	14	0																						
2	31	8	25																						
分布状況	<p>夏季の採餌場所を図 3-11 に示す。 採餌は、潮位が低下する 10 時頃が最も多くなり、その後は減少した。採餌場所は船橋海浜公園及び周辺の干潟、養貝場とその周辺が主体で、平成 8~9 年度と大きな変化はなかった。</p> <p>夏季の休息場所を図 3-12 に示す。 休息は、潮位が高くなる 17 時に最も多く、船橋防泥柵周辺や養貝場へ通じる橋の上でみられた。平成 8~9 年度と比較すると、平成 8~9 年度には船橋海浜公園の沖や日の出の前面でも休息がみられたが、今年度はこの海域での休息はみられなかった。</p>																								



平成19年度夏季

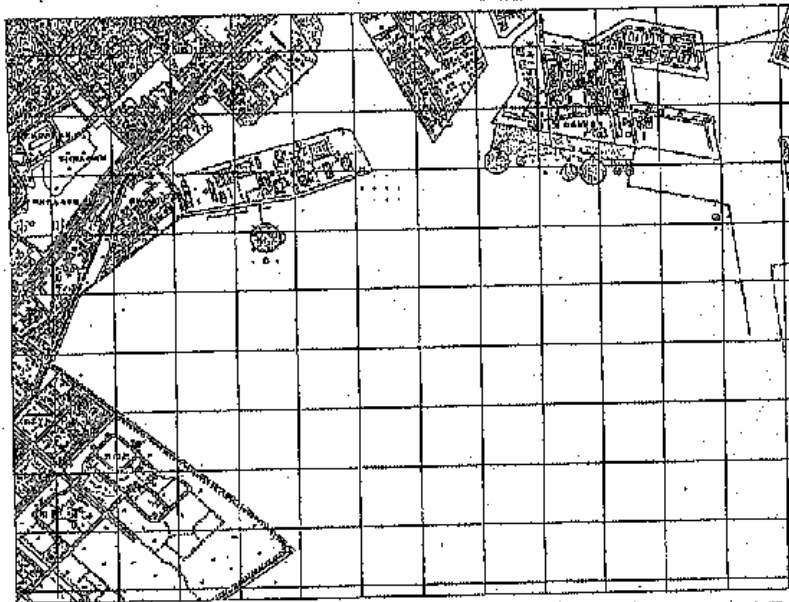
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

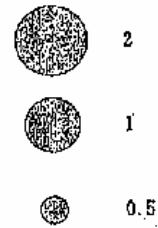
$x$ : 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
 $d$ : 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
 $d=0.1$ で表示



平成8~9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



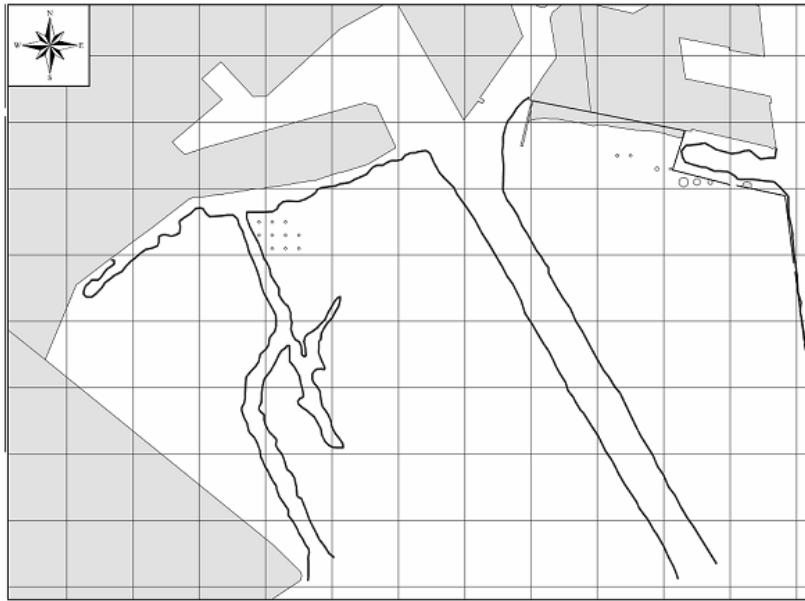
基準値1以上の場合  $x = 10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x = d$

$x$ : 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
 $d$ : 直径 (cm)

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図 3-11 夏季におけるダイゼンの密度分布(採餌場所)



平成19年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。

○ 2

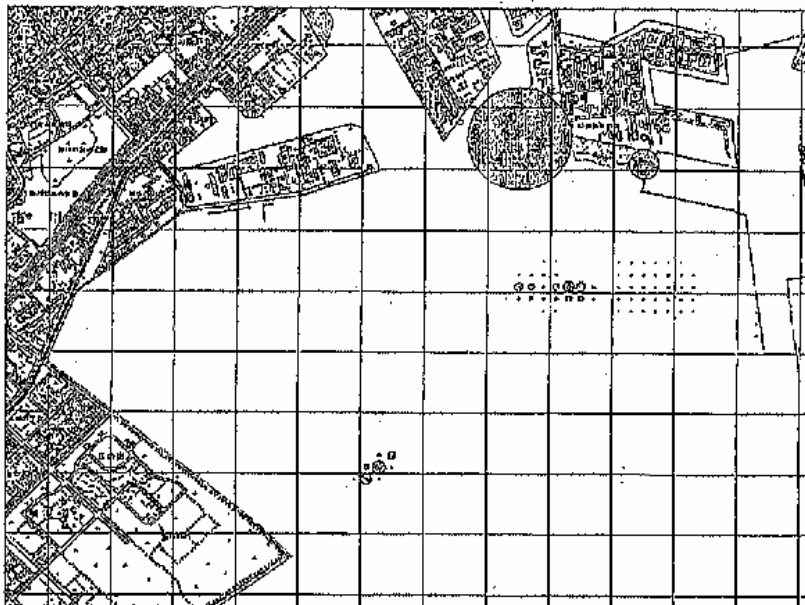
○ 1

○ 0.5

基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

$x$ : 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
 $d$ : 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
 $d=0.1$ で表示



平成8～9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。

○ 2

○ 1

○ 0.5

基準値1以上の場合  $x = 10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x = d$

$x$ : 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
 $d$ : 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。

図 3-12 夏季におけるダイゼンの密度分布(休息場所)

キョウジョシギ

平成 19 年 8 月 28 日  
船橋海浜公園

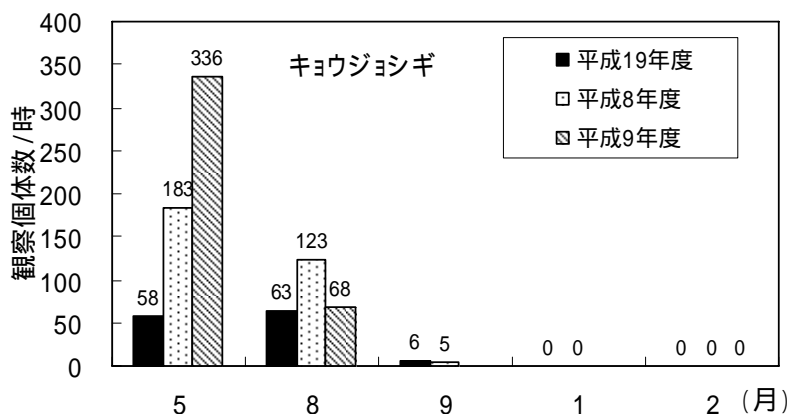


一般生態

旅鳥として日本各地に渡来し、砂浜や河口の砂泥地のほか岩石地や砂利地の海岸などで甲殻類、貝類、ハマトビムシなどを採餌する。

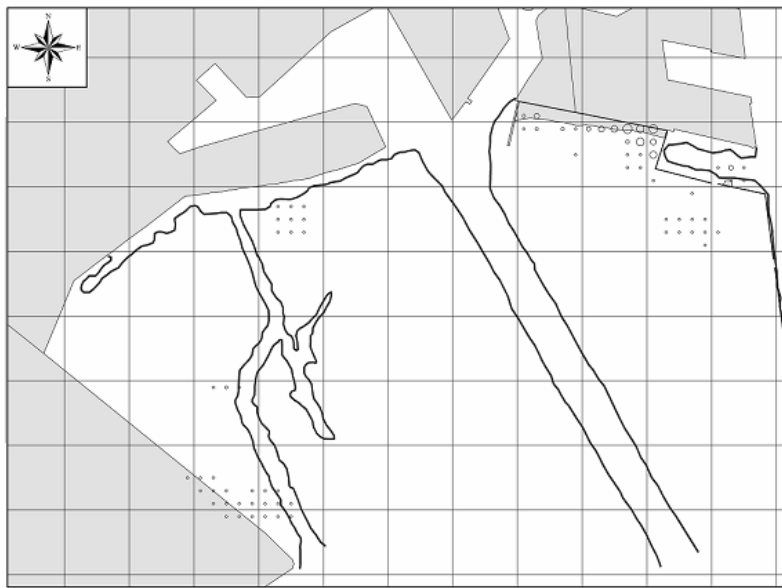
確認時期

平成 8～9 年度と同様、主に 5 月及び 8 月に確認された。



分布状況

夏季の採餌場所を図 3-13 に示す。  
採餌は、6 時から 17 時までみられ、13 時と 17 時の観察個体数が多かった。潮位との関係はみられず、潮位の高い 17 時には船橋海浜公園の汀際付近で採餌する個体が多くみられた。主な採餌場所は船橋海浜公園周辺、養貝場及び日の出の前面であった。平成 8～9 年度は日の出前面での採餌がほとんどなく、採餌場所が拡大していた。  
夏季の休息場所を図 3-14 に示す。  
キョウジョシギの休息は、夕方の 17 時から増加した。休息場所は船橋防泥柵周辺、日の出前面の護岸付近であった。平成 8～9 年度は防泥柵の沖側での休息が多かったが、本年度はこの場所での休息は確認されなかった。



平成19年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。

○ 2

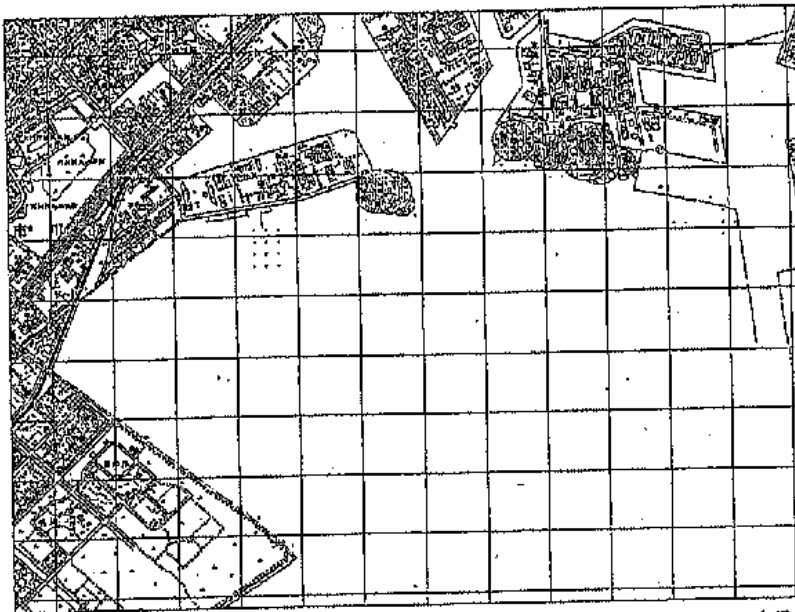
○ 1

○ 0.5

基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

x: 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d: 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
d=0.1で表示



平成8～9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。

● 2

● 1

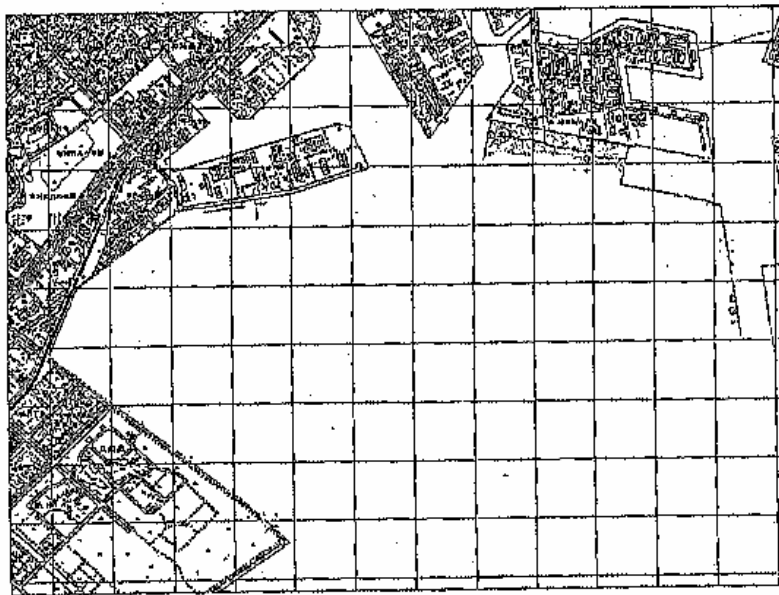
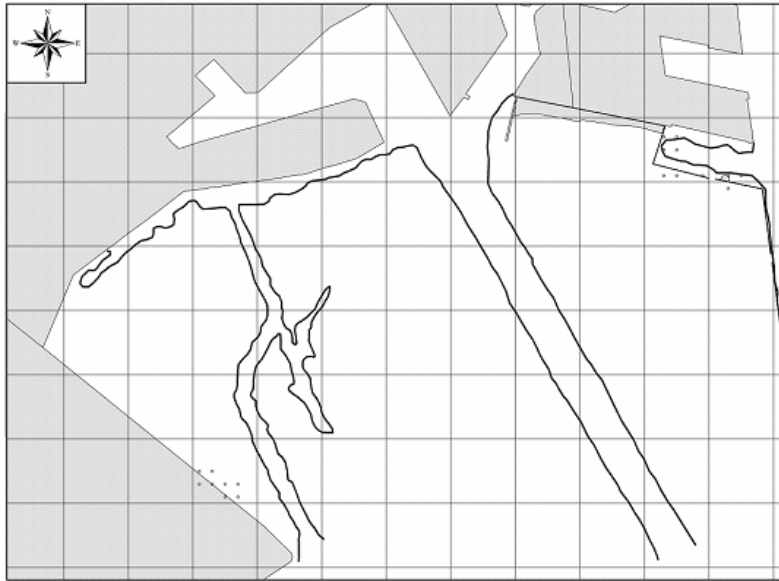
● 0.5

基準値1以上の場合  $x = 10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x = d$

x: 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
d: 直径 (cm)

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。

図 3-13 夏季におけるキョウジョシギの密度分布(採餌場所)



格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図 3-14 夏季におけるキョウジョシギの密度分布(休息場所)

## トウネン

平成 19 年 8 月 28 日  
船橋海浜公園

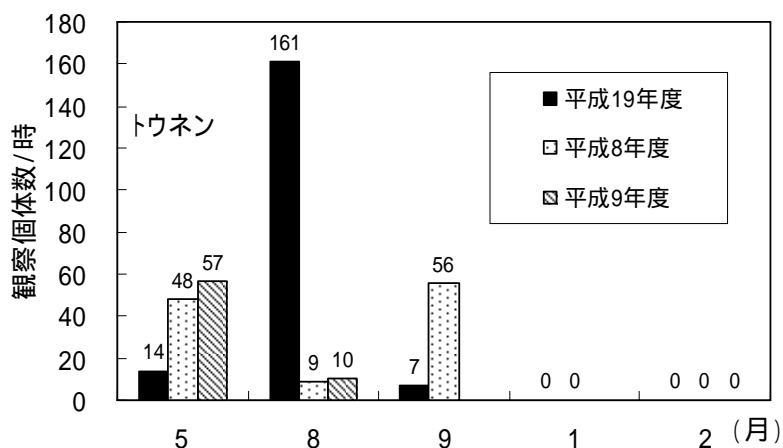


一般生態

旅鳥として日本各地に渡来し、砂浜の波打ち際や水溜まり、干潟砂泥地などでゴカイ類、甲殻類、昆虫類などを採餌する。

確認時期

本種は平成 8～9 年度と同様、5 月、8 月、9 月に確認されたが、8 月が多く、5、9 月は少ない傾向にあった。



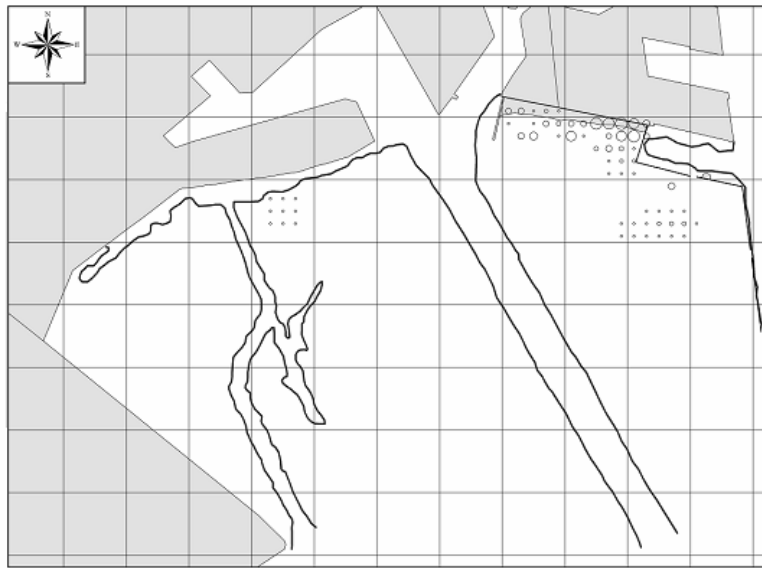
分布状況

夏季の採餌場所を図 3-15 に示す。

トウネンの採餌は、観察を開始した 6 時～終了の 18 時まですべて確認され、下げ潮時の 9 時、上げ潮時の 17 時に観察個体数が多かった。主な採餌場所は、船橋海浜公園周辺及び養貝場であり、平成 8～9 年度と大きな変化はなかった。

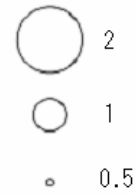
夏季の休息場所を図 3-16 に示す。

主な休息場所は船橋の防泥柵上であった。平成 8～9 年度には船橋海浜公園の汀線付近での休息が多く、本年度とはやや場所が異なっていた。



平成19年度夏季

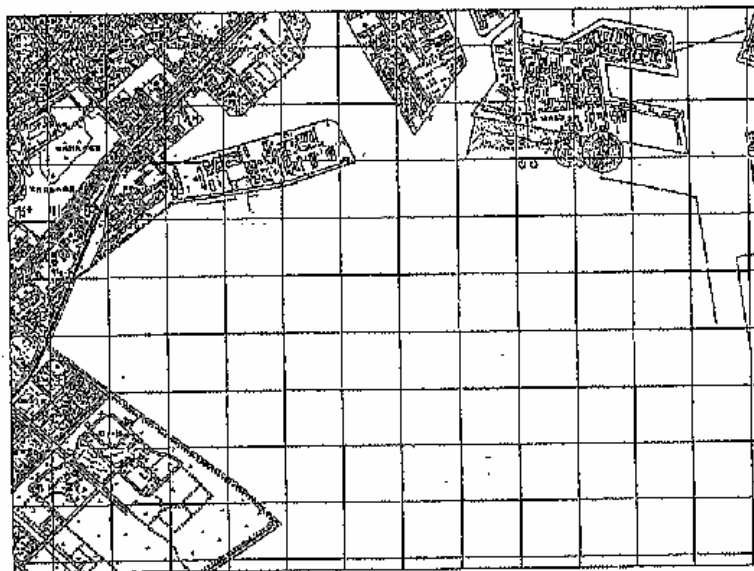
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

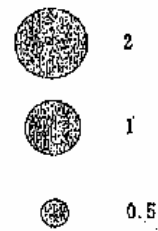
x:密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d:直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
d=0.1で表示



平成8～9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x = 10^{d-2}$   
上記以外の場合  $x = d$

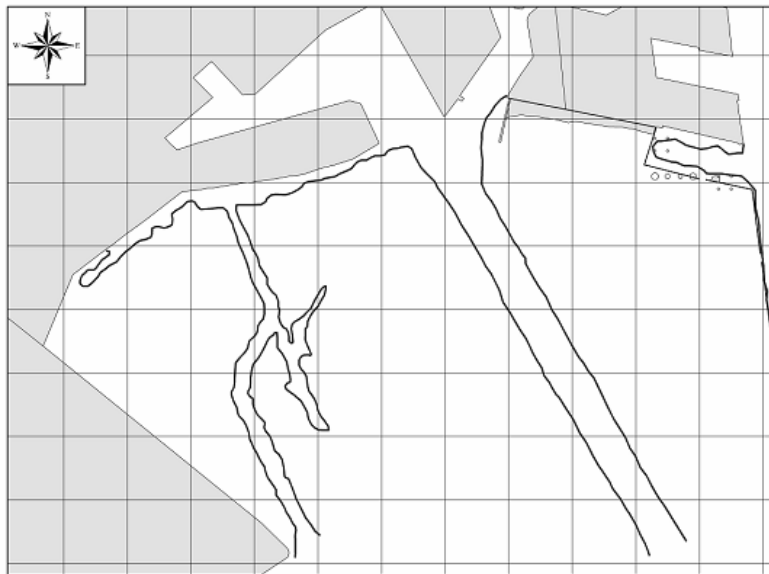
x:密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象区間]  
d:直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



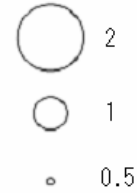
図 3-15 夏季におけるトウネンの密度分布(採餌場所)





平成19年度夏季

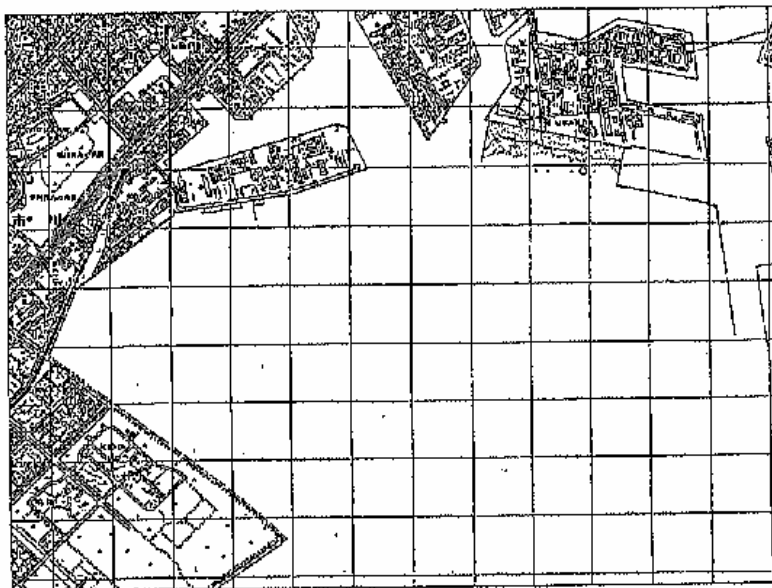
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

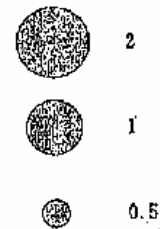
$x$ : 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
 $d$ : 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
 $d=0.1$ で表示



平成8～9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x = 10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x = d$

$x$ : 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
 $d$ : 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m<sup>2</sup>にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図 3-16 夏季におけるトウネンの密度分布(休息場所)

## ハマシギ



平成 20 年 1 月 22 日  
船橋防泥柵で休息



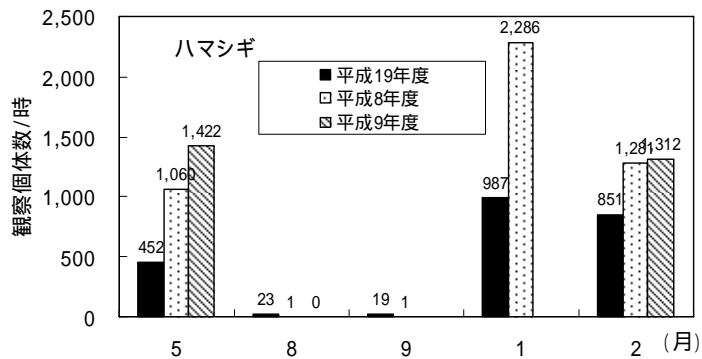
平成 19 年 8 月 28 日  
船橋海浜公園

### 一般生態

旅鳥として日本各地に渡来し、砂浜、干潟、水溜まり、大きい河川の砂泥地などで水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどを採餌する。  
干潟では干上がった泥の上から、足の長さと同じくらいの深さの水中を活発に動き回り、泥の中や水面をついばんで、ゴカイ、小型の甲殻類などを捕らえる。

### 確認時期

平成 8～9 年度同様、主に 5 月と冬季に確認された。



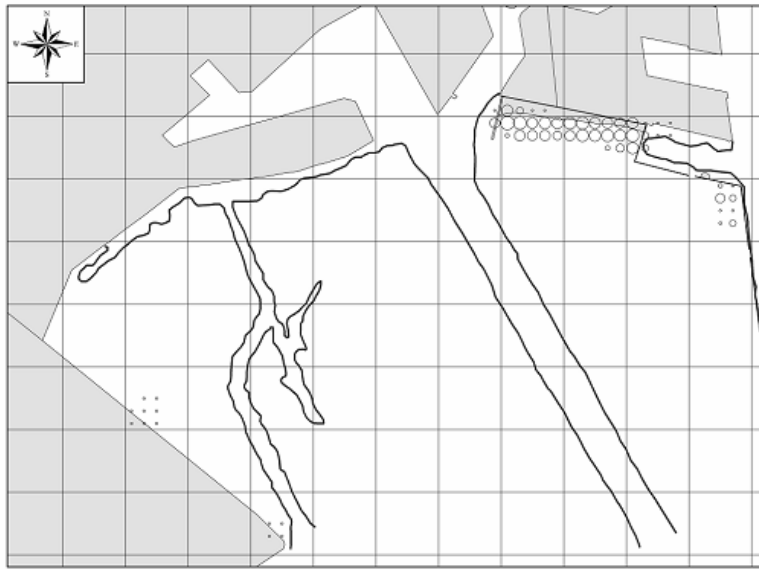
### 分布状況

冬季の採餌場所を図 3-17 に示す。

ハマシギの採餌は、潮位が低下し始めてから上げ始めまでの時間に主にみられ、潮位が高くなる時間には少なくなった。採餌場所は、船橋海浜公園周辺と日の出前面であり、平成 8～9 年度と概ね同様であった。ただし、平成 8～9 年度にみられた養貝場、市川航路出口付近での採餌は、本年度はみられなかった。

冬季の休息場所を図 3-18 に示す。

休息個体は、潮位が高くなる時間に増加した。主な休息場所は、船橋海浜公園の船橋航路寄り、防泥柵上であり平成 8～9 年度と大きな変化はなかった。



平成19年度冬季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



2



1

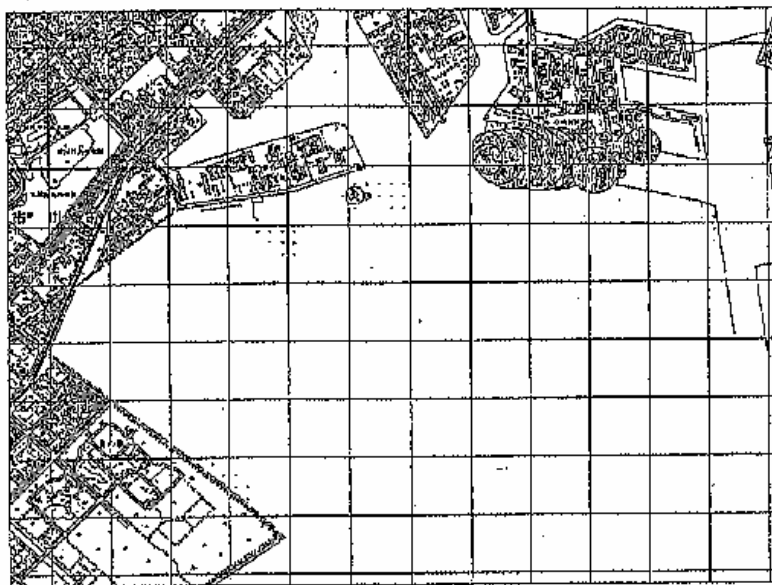


0.5

基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

x: 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d: 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
d=0.1で表示



平成8~9年度冬季

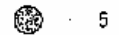
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



20



10



5

基準値10以上の場合  $x = 10^d$   
上記以外の場合  $x = 10d$

x: 密度【個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間】  
d: 直径【cm】

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図 3-17 冬季におけるハマシギの密度分布(採餌場所)

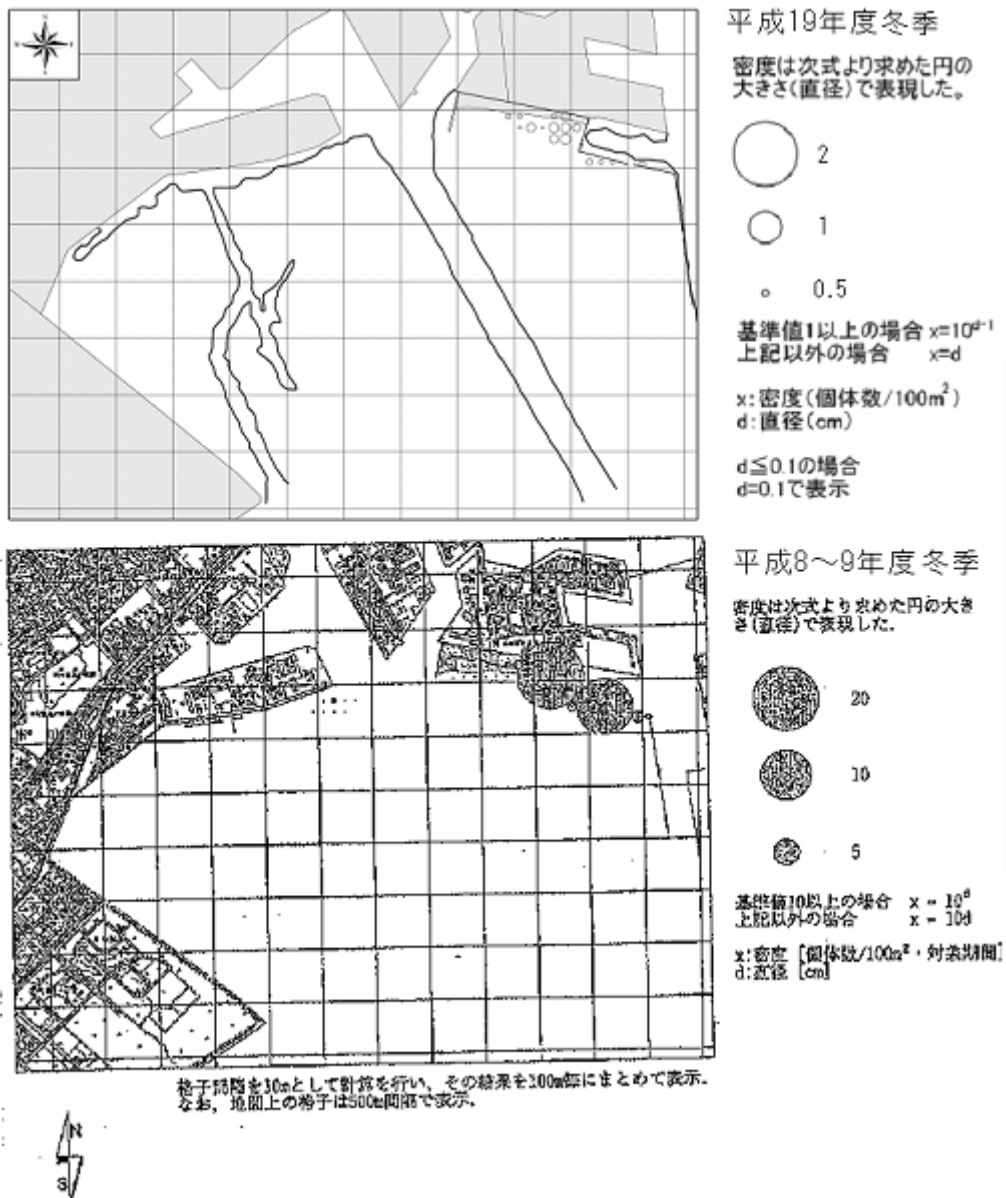

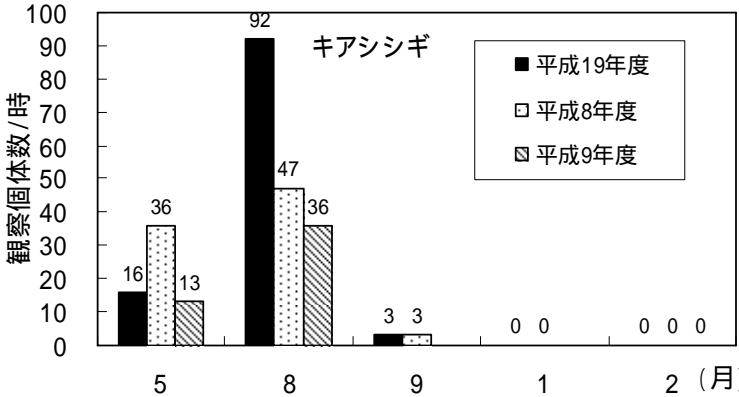
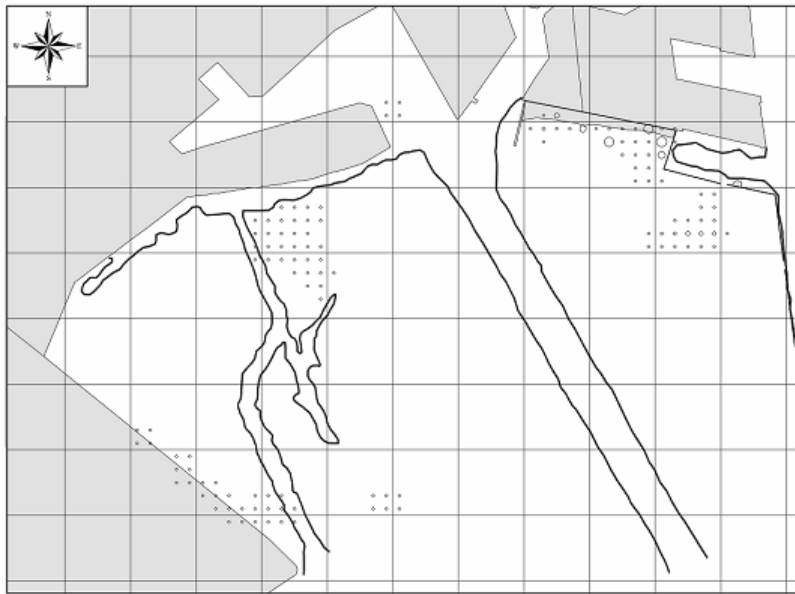


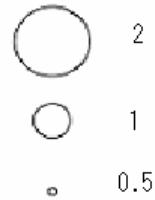
図 3-18 冬季におけるハマシギの密度分布（休息場所）

<b>キアシシギ</b>																									
平成 19 年 8 月 28 日 船橋海浜公園 <div style="text-align: center;">  </div>																									
一般生態	旅鳥として日本各地に渡来し、砂浜、波打ち際、干潟、河川の砂泥地や砂礫地などで昆虫類等を採餌する。干潟などでは、泥の上や浅い水中を活発に動き回ってカニやゴカイを捕らえたり、水面に浮いている昆虫をついばんだりする。																								
確認時期	平成 8～9 年度と同様、主に、5 月、8 月に確認され、8 月の確認個体数は多い傾向にあった。 <div style="text-align: center;">  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>キアシシギの観察個体数/時</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>平成19年度</th> <th>平成8年度</th> <th>平成9年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>16</td> <td>36</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>92</td> <td>47</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </div>	月	平成19年度	平成8年度	平成9年度	5	16	36	13	8	92	47	36	9	3	3	3	1	0	0	0	2	0	0	0
月	平成19年度	平成8年度	平成9年度																						
5	16	36	13																						
8	92	47	36																						
9	3	3	3																						
1	0	0	0																						
2	0	0	0																						
分布状況	<p>夏季の採餌場所を図 3-19 に示す。</p> <p>キアシシギの採餌は、潮位の下がり始める時間から上げ始めるまでの時間帯に確認された。主な採餌場所は船橋海浜公園周辺、養貝場、日の出の前面域であった。日の出前面域での採餌は平成 8～9 年度には確認がなく、採餌場所が拡大していた。一方、江戸川放水路河口での採餌は、本年度は平成 8～9 年度に比べて少なかった。</p> <p>夏季の休息場所を図 3-20 に示す。</p> <p>休息は、潮位の高い時間に多くみられた。休息場所は養貝場にかかった橋脚周辺、船橋の防泥柵上、日の出前面の護岸付近であった。平成 8～9 年度の休息場所は船橋海浜公園及びその沖が中心であり、今年度とは異なる状況であった。</p>																								



平成19年度夏季

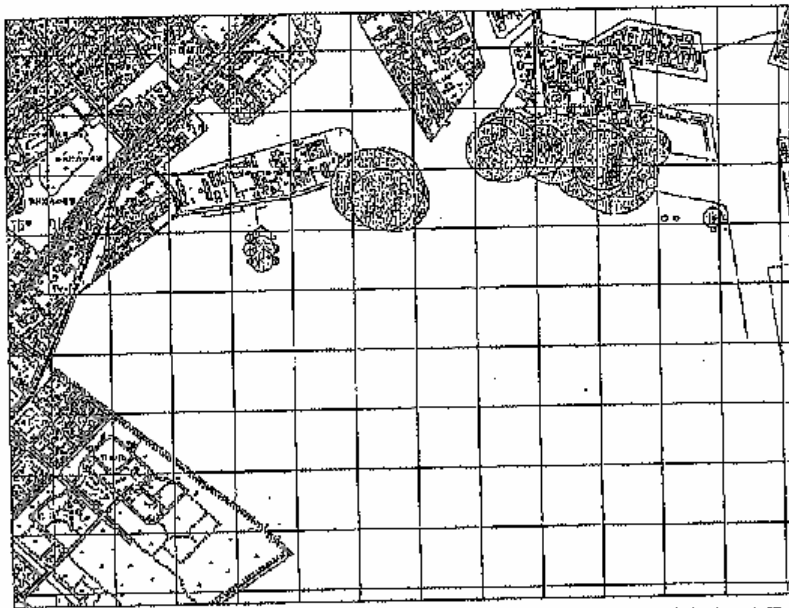
密度は次式より求めた円の  
大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

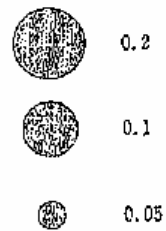
x: 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d: 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
d=0.1で表示



平成8~9年度夏季

密度は次式より求めた円の大き  
さ(直径)で表現した。

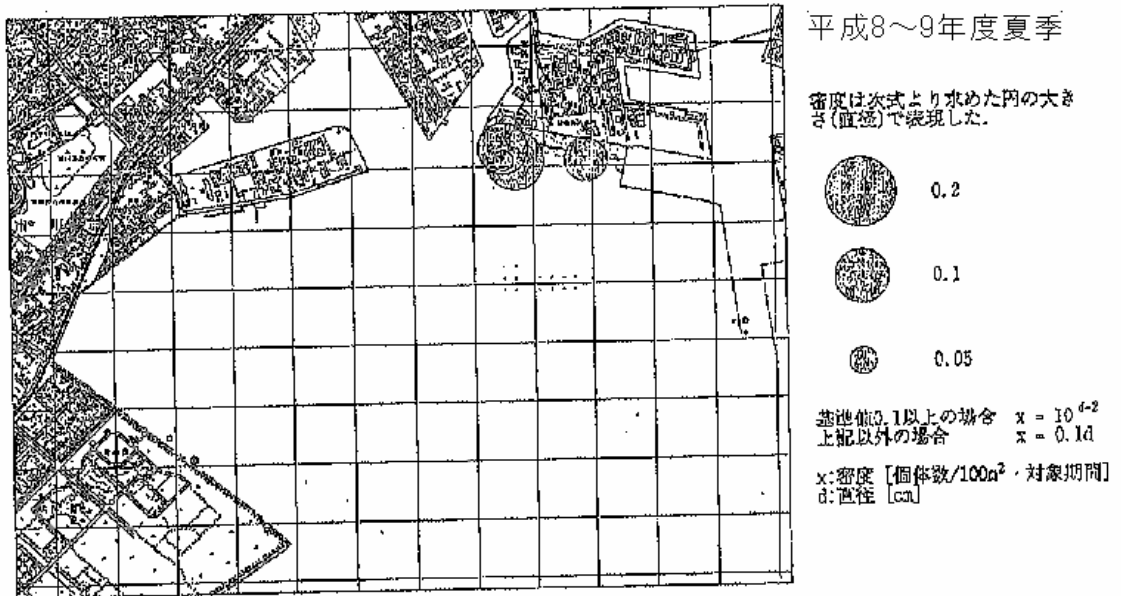


基準値0.1以上の場合  $x = 10^{d-2}$   
上記以外の場合  $x = 0.1d$

x: 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
d: 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。

図 3-19 夏季におけるキアシシギの密度分布(採餌場所)



格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
 なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図3-20 夏季におけるキアシシギの密度分布(休息場所)

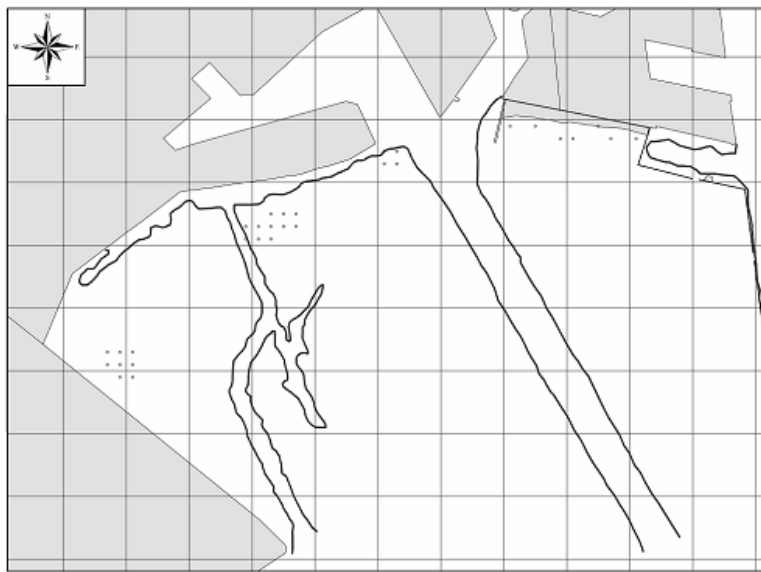
## チュウシャクシギ

山溪カラー名鑑、日本の野鳥(1990)から転載



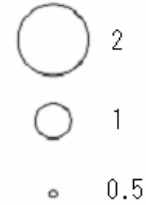
一般生態	本種は春と秋に、数羽～数十羽の群れが干潟、岩礁、水田、川岸で確認される。大型のカニをよく捕らえ、草地で昆虫を捕らえることもある。																								
確認時期	<p>平成8～9年度と同様、5月、8月、9月に確認された。</p> <table border="1"> <caption>チュウシャクシギの観察密度 (個体数/時)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>平成19年度</th> <th>平成8年度</th> <th>平成9年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>7</td> <td>40</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	月	平成19年度	平成8年度	平成9年度	5	7	40	31	8	1	4	4	9	2	3	0	1	0	0	0	2	0	0	0
月	平成19年度	平成8年度	平成9年度																						
5	7	40	31																						
8	1	4	4																						
9	2	3	0																						
1	0	0	0																						
2	0	0	0																						
分布状況	<p>チュウシャクシギの平成8～9年度の行動別分布密度については、9月の結果が示されていたため、9月のデータで比較を行った。</p> <p>秋季(9月)の採餌場所を図3-21に示す。</p> <p>主な採餌場所は、船橋海浜公園、養貝場、猫実川河口付近であった。平成8～9年度は江戸川放水路河口域での採餌が多く、やや異なっていた。</p> <p>秋季(9月)の休息場所を図3-22に示す。</p> <p>休息は江戸川放水路河口、船橋防泥柵周辺でみられ、観察個体数は少なかったが、平成8～9年度と同様であった。</p>																								





平成19年度 秋季

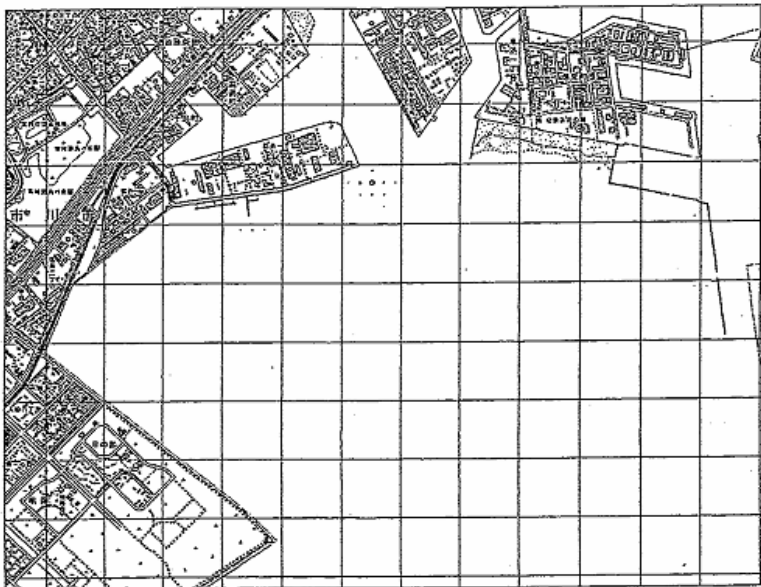
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

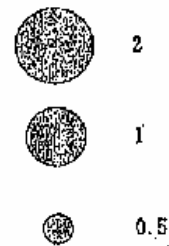
$x$ : 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
 $d$ : 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
 $d=0.1$ で表示



平成8～9年度 秋季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



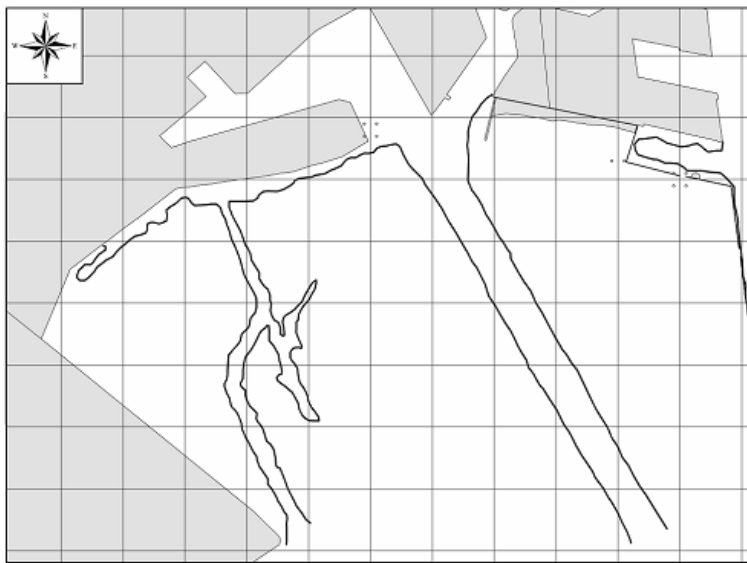
基準値1以上の場合  $x = 10^{d-2}$   
上記以外の場合  $x = d$

$x$ : 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
 $d$ : 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図3-21 秋季におけるチュウシャクシギの密度分布(探餌場所)



平成19年度 秋季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



2



1

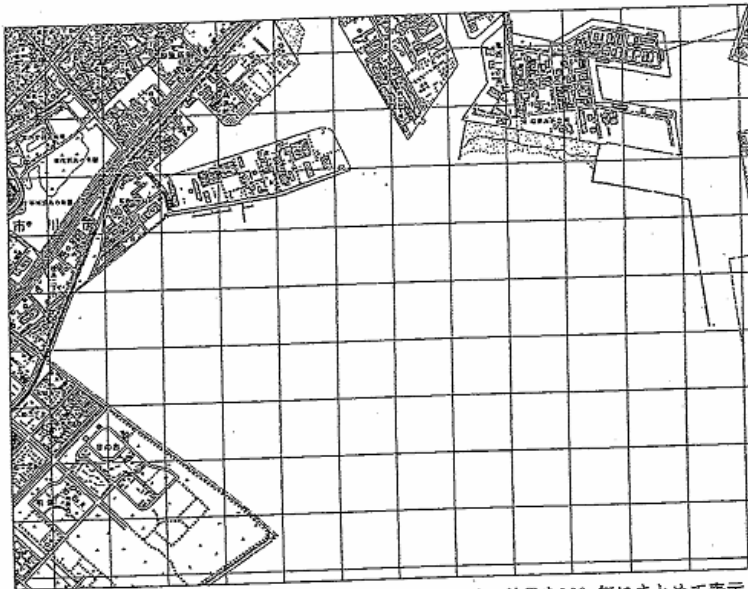


0.5

基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

x: 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d: 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
d=0.1で表示



平成8～9年度 秋季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



2



1



0.5

基準値1以上の場合  $x = 10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x = d$

x: 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
d: 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図3-22 秋季におけるチュウシャクシギの密度分布(休息場所)

ミュビシギ

山溪カラー名鑑、  
日本の野鳥(1990)  
から転載

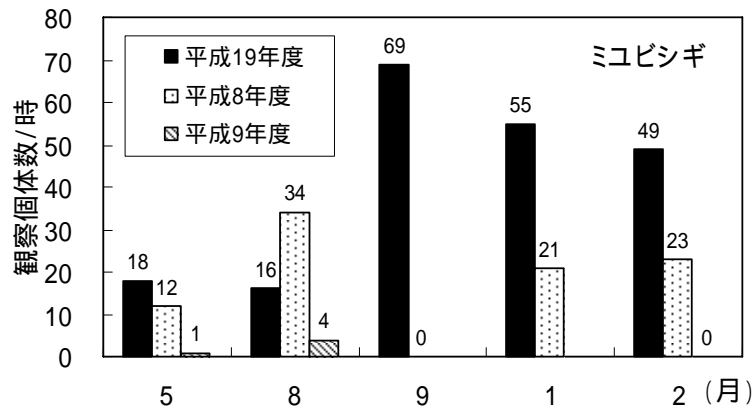


一般生態

旅鳥または冬鳥として日本各地に渡来し、本州以南では少数が越冬する。砂浜の波打ち際、広い砂浜、干潟、干拓地の水溜まりなどでアブ、カ、ガガンボなどの昆虫の幼虫、成虫、コケ類や海藻の芽などを採餌する。

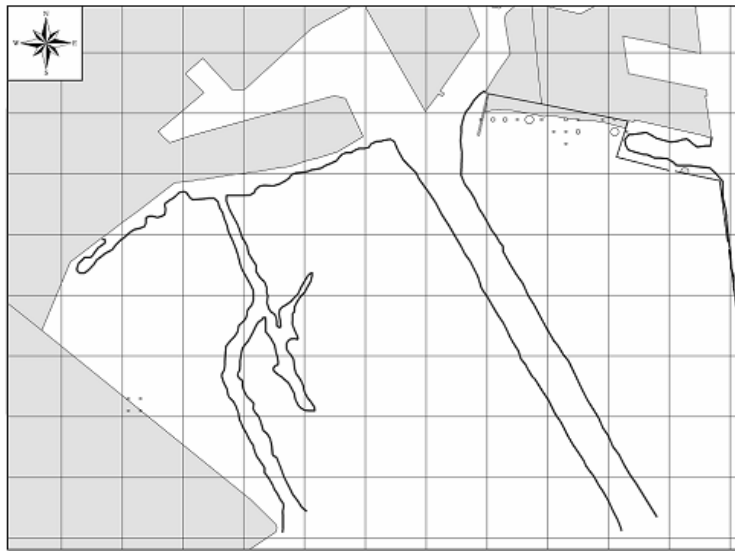
確認時期

本種は、春季、夏季、冬季ともに確認され、9月、1月、2月の確認個体数が比較的多かった。



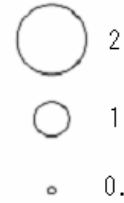
分布状況

夏季の採餌場所を図 3-23 に示す。  
 ミュビシギの採餌は、上げ潮時と下げ潮時に多くみられた。主な採餌場所は、船橋海浜公園であり、平成 8～9 年度と同様であったが、本年度は日の出前面の護岸付近でも採餌が確認された。  
 夏季の休息場所を図 3-24 に示す。  
 休息個体の確認は少なかったが、船橋防泥柵周辺でみられた。  
 冬季の採餌場所を図 3-25 に示す。  
 採餌は、夏季と同様、下げ潮から上げ潮の時間に多くみられた。採餌場所は船橋海浜公園及び日の出前面の護岸付近であった。平成 8～9 年度には日の出前面での利用がみられてないことから、採餌場としての利用範囲が拡大していた。  
 冬季の休息場所を図 3-26 に示す。  
 休息個体は上げ潮から満潮の時間に多く観察された。休息場所は、船橋海浜公園及び防泥柵上であり、平成 8～9 年度と同様であった。



平成19年度夏季

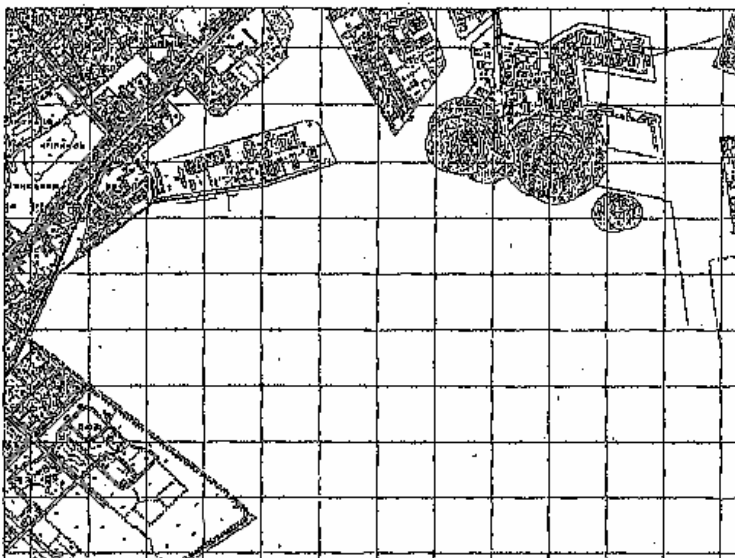
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

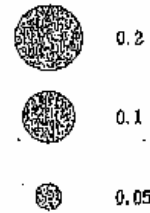
x:密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d:直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
d=0.1で表示



平成8～9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値0.1以上の場合  $x = 10^{d-2}$   
上記以外の場合  $x = 0.1d$

x:密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
d:直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。

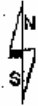
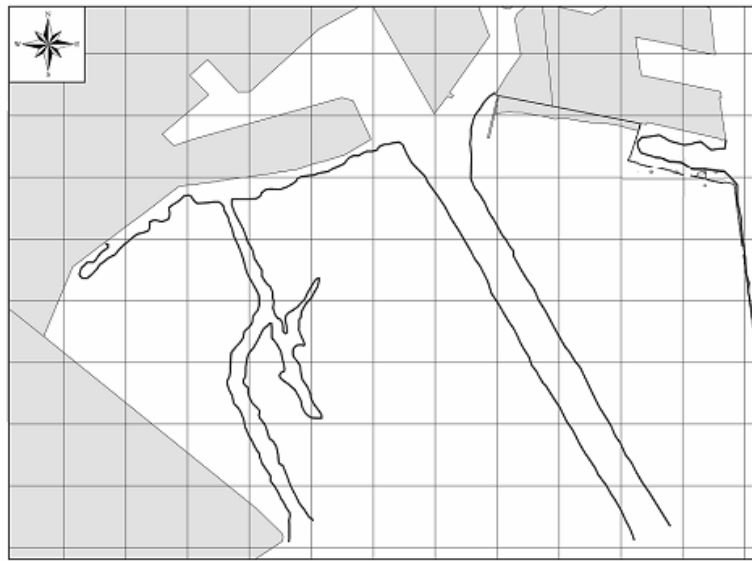
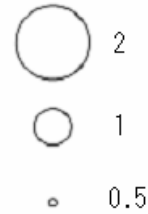


図 3-23 夏季におけるミュビシギの密度分布 (採餌場所)



平成19年度夏季

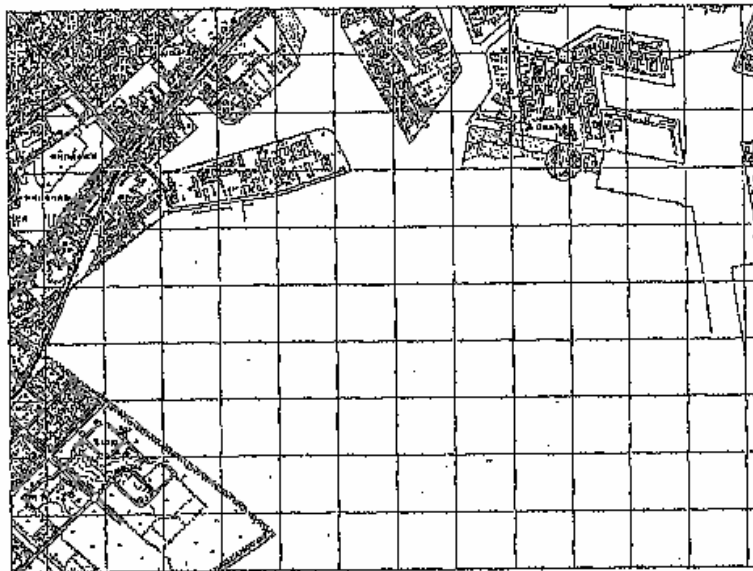
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

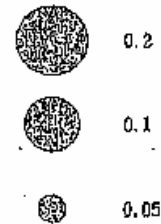
x: 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d: 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
d=0.1で表示



平成8～9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値0.1以上の場合  $x = 10^{d-2}$   
上記以外の場合  $x = 0.1d$

x: 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
d: 直径 (cm)

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。

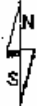
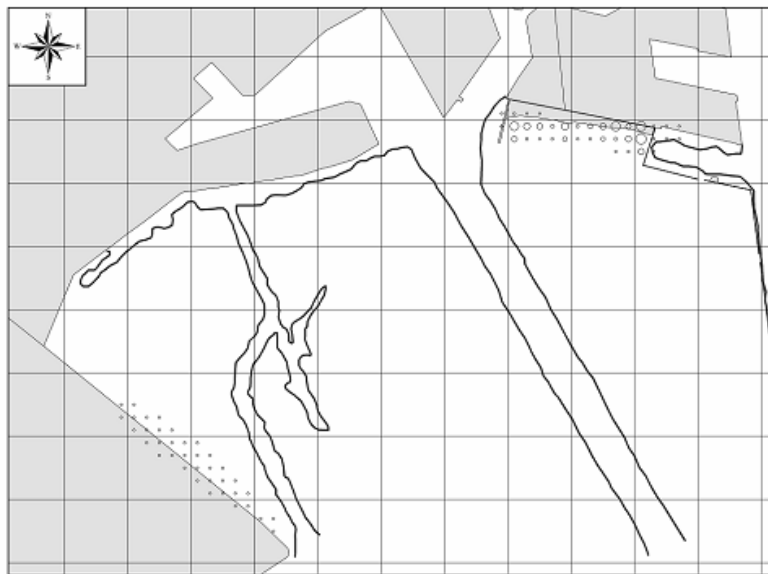
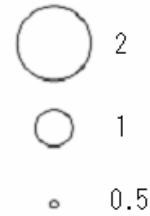


図 3-24 夏季におけるミユビシギの密度分布(休息場所)



平成19年度 冬季

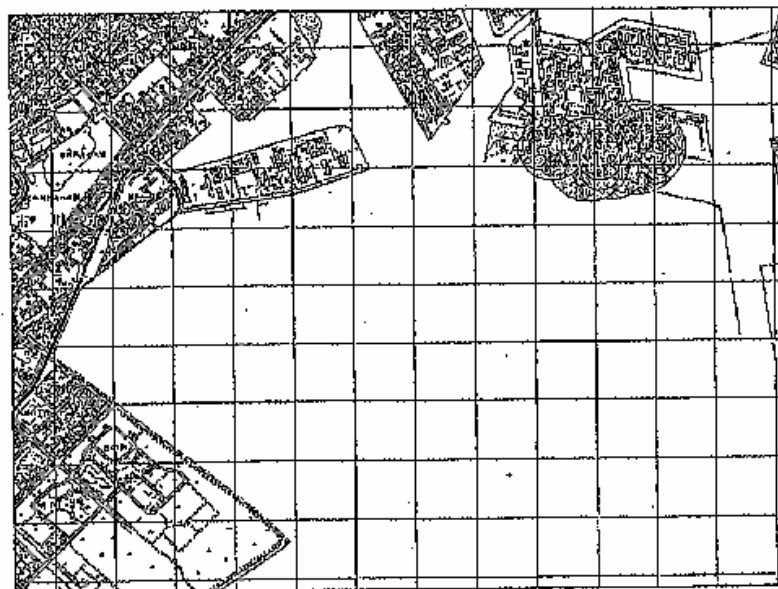
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

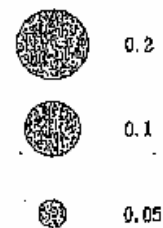
x: 密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d: 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
d=0.1で表示



平成8～9年度 冬季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値0.1以上の場合  $x = 10^{d-0.1}$   
上記以外の場合  $x = 0.1d$

x: 密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
d: 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。

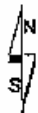
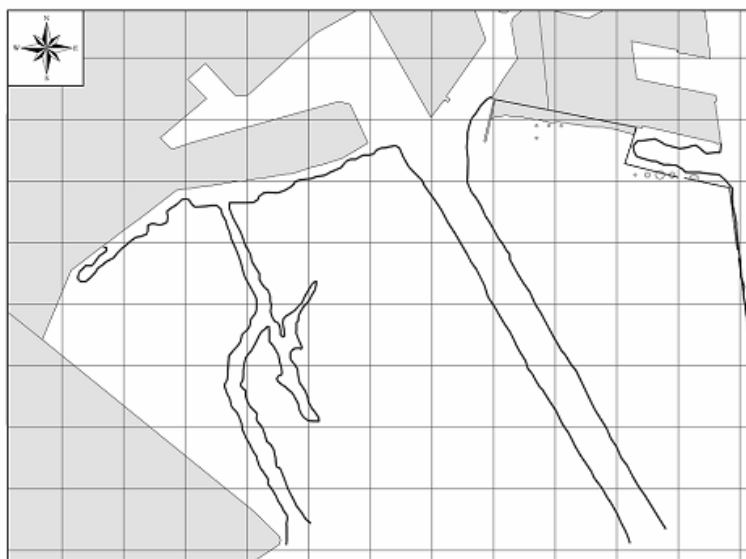


図 3-25 冬季におけるミユビシギの密度分布(採餌場所)



平成19年度 冬季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



2



1

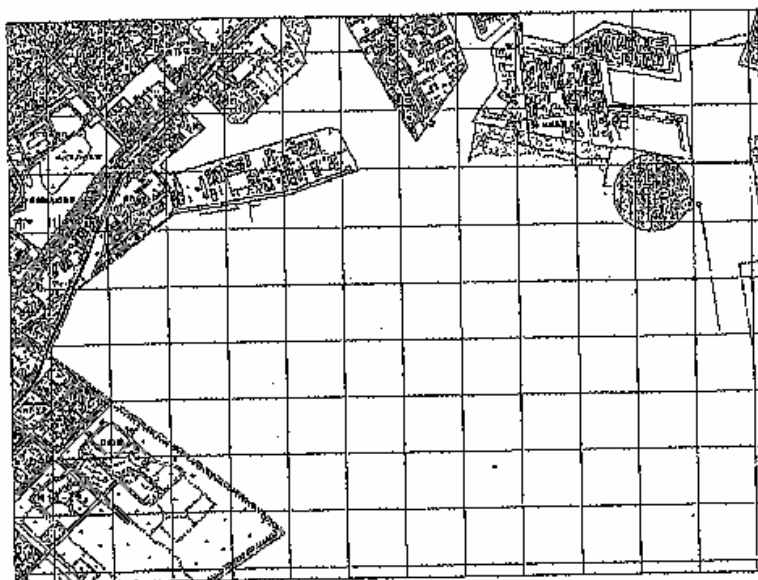


0.5

基準値1以上の場合  $x=10^{d-1}$   
上記以外の場合  $x=d$

x:密度(個体数/100m<sup>2</sup>)  
d:直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合  
 $d=0.1$ で表示



平成8～9年度 冬季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



0.2



0.1



0.05

基準値0.1以上の場合  $x = 10^{d-0.1}$   
上記以外の場合  $x = 0.1d$

x:密度 [個体数/100m<sup>2</sup>・対象期間]  
d:直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。  
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図3-26 冬季におけるミュビシギの密度分布(休息場所)

## 4.まとめ

平成19年5月から平成20年2月にかけて、三番瀬における鳥類の行動別分布状況を調査し、平成8～9年度の調査結果と対比して、鳥類の三番瀬の利用状況とその変化を検討した。

鳥類の採餌・休息と関係のある三番瀬の地形については、平成7年度及び15年度に深淺測量が実施されている。その結果によると、日の出前面域、猫実川河口、養貝場、船橋海浜公園前面域などで、AP0m以浅の干出域が拡大する傾向がみられている。

干潟を利用する鳥類の餌となる底生動物と底質の調査は平成18年度に実施されており、平成8～9年度の調査結果と比較が行われている。

底質は、市川航路周辺の浅海域や塩浜護岸前面付近で中央粒径が小さくなり、シルト・粘土分が高くなっていった。底生動物については、春季、夏季における現存量が平成8～9年度に比べて少なくなっていた。

また、底生動物については、類似度による海域区分が実施され、同じ干出域であっても、船橋海浜公園の砂浜域と養貝場とでは、特に夏季の生物相が異なることが指摘されている。

干出域を採餌場として利用するシギ・チドリ類の多くは、平成8～9年度と同様、船橋海浜公園とその周辺での確認が多かった。

これらのうち、キョウジョシギ、キアシシギ、ミユビシギ等は船橋海浜公園とその周辺の干出域に加えて、日の出前面域での採餌行動もみられるように変化していた。

日の出前面の干出域は、埋め立て地先端付近で拡大している他、護岸に沿って猫実川河口付近まで細長く干出域が形成されており、このような干出域の形成との関連性が示唆された。

塩浜の前面の養貝場は、夏季にはシロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、キアシシギなどが、船橋海浜公園と同様に採餌場として利用していたが、キョウジョシギ、トウネン、ミユビシギは、養貝場での採餌利用が少ない傾向がみられた。

三番瀬に渡来するカモ類の中で、最も個体数の多いスズガモは、平成8～9年度には、ノリ養殖場内での休息が少なかったのに対して、本年度はノリ養殖場内での休息も多くみられ、ノリ支柱柵が減少していることとの関係が示唆された。